

〔科目名〕 遺跡と文化財	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 岡田 康博 OKADA Yasuhiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義及び現地見学
〔科目の概要〕 <ul style="list-style-type: none"> ・青森県には特別史跡三内丸山遺跡をはじめとして、史跡亀ヶ岡遺跡や史跡是川遺跡な著名な縄文遺跡や多種多様な文化財、文化遺産が存在する。これらは歴史的・文化的資源であるとともに、活用可能な地域資源でもあることから、適切に保護・保存しながら十分に活用する必要がある。 ・文化財の定義や種類、価値、日本における文化財保護の歩みや文化財保護法、世界遺産の理念や登録へ向けての仕組みなどについて学び、各地に所在する文化財の保護や活用事例を紹介するとともに、地域社会に貢献する文化財の活用のあり方を考え、その具体的な計画案を試験的に作成する。 ・そのためのケーススタディーとして縄文遺跡を取りあげ、最新の研究成果に基づく縄文社会の実像や当時の生活や文化などについて知り、その価値や魅力、地域資源としての可能性を考え、地域づくりや活性化、人材育成に活かす方策などを探る。 ・遺跡や文化財を通して地域社会の重要性や可能性を考えるため、考古学の成果も参考とするが、考古学・歴史学の講義ではない ・最近注目されている世界遺産についてもその趣旨や制度を理解し、効果や課題などについて考える。 		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <ul style="list-style-type: none"> ・日本における文化財保護の仕組みや課題について知ることにより、文化財保護や活用の基本的な考え方や思想を整理、確認するとともに地方自治体等が行う文化財保護行政の本来のあり方や課題を具体的に知る。 ・さらに地域の遺跡や文化財をどのように保護し、さらに多様な活用方法を検討することにより、自分自身が街づくりや地域づくりのプランナーとして、あるいは一住民やボランティアとして将来活動、参加する際の貴重な体験ともなる。 ・最近、注目されている世界文化遺産について、理念、登録までのプロセス、課題等を知ることにより、世界文化遺産をより身近な地域の話題として、受け止めることができる。 ・大学の近くに所在する、日本を代表する縄文遺跡である三内丸山遺跡についてこれまでの経過を振り返りながら、発掘調査で見えてきた縄文文化の実像を知ることにより、日本列島における人類史はもちろん自分たちの暮らす地域の歴史や文化、風土の形成等について学ぶことができる。 		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <ul style="list-style-type: none"> ・日本における文化財保護の仕組み、活用を中心とした文化財保護行政の現状と課題について知る。 ・ケーススタディーとして、縄文文化に関する最新の研究成果をもとに、三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡の特徴について理解する。 ・世界文化遺産について、その理念や登録までプロセス、方法、課題等を知り、さらに登録後の状況も知る。 ・地域資源としての遺跡や文化財の特徴を活かした多様な活用についての計画案を作成することを最終目標とする。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護法については必要箇所を概説するとともに、これまでの判例等を取り上げ、課題等についても解説する。 ・三内丸山遺跡の現地見学を含め、ビデオやスライドなどの映像資料を多く使用し、より多くの事例を紹介し、具体的なイメージを構築できるような講義とする。 ・縄文文化に関する研究成果では、衣食住など生活に関する項目を取り上げ、より生活感があり遺跡や文化財について親しみを持てるようにする。 ・毎回、講義内容についての資料を配付する。 		
〔教科書〕 <ul style="list-style-type: none"> ・使用しない。必要な資料は教員が作成し、配付する。 		
〔指定図書〕 <ul style="list-style-type: none"> ・必要なときに提示する。 		

<p>〔参考書〕</p> <p>『世界遺産になった！縄文遺跡』岡田 康博編 同成社 2021</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>な し</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>・中間試験として遺跡観察レポート、定期(期末)試験として課題レポート(テーマや内容については授業中に提示する)を提出してもらい、総合的に評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>・遺跡観察レポート、課題レポート、出席状況により成績評価を行う。毎回、出席の確認を行い、出席が少ない場合には評価の対象としない。</p> <p>遺跡観察レポート 20点 課題レポート 80点</p> <p>A:100～80 B: 80～70 C: 70～60 D: 60～50 F: 50～0</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>文化庁や長年にわたる文化財保護行政の実務経験をもとに、実務的な遺跡や文化財の保存や活用に関する最新情報を提供し、文化財保護法や文化財保護の仕組みについても具体例を用いながらの解説を心懸けている。また、縄文文化研究の最新の成果を紹介するとともに、日本では数少ない、遺跡の保存・活用の成功例として三内丸山遺跡の調査成果やこれまでの経過、行政的な取り組み等について実際に関わったものとしての体験談を伝え、地域の遺跡や文化財をどのように活用するのか、地域づくりや活性化、人材育成にどう活かすのか講義全体を通じて具体的な活用方法を考えて欲しい。さらに最近注目されている世界遺産について、理念やプロセス、登録方法、課題といった点についても取り上げる。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>県職員として文化財保護行政及び世界遺産登録推進、文化庁文化財調査官として豊富な実務経験がある。</p>	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡、文化財について</p> <p>内 容: 遺跡や文化財の種類や定義、日本における文化財保護の仕組み、文化財保護法について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文遺跡について</p> <p>内 容: 縄文遺跡について基礎的な内容について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文時代のムラ(遺跡公園)を歩く</p> <p>内 容: 三内丸山遺跡の現地見学を行い、縄文のムラの様子を知る</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存方法について</p> <p>内 容: 三内丸山遺跡内で行われているさまざまな文化財の保存方法を知る。遺跡見学レポートの提出。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文時代の暮らしについて 内 容: 発掘調査が語る当時の環境や生業、生活などを知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 三内丸山遺跡における活用の現状について 内 容: 遺跡の保存の経緯を知り、公開・活用の効果等について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(1) 内 容: 活用の観点から縄文時代の衣食住について考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(2) 内 容: 活用の観点から縄文人の精神世界や価値観を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について 内 容: 世界遺産の理念、登録の仕組み等を知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について 内 容: 世界遺産の効果、現状、課題等を知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(3) 内 容: 活用の観点から縄文人の生活を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(4) 内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(5) 内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(6) 内 容: 遺跡や文化財の保存、活用について海外の事例について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: 講義内容を整理し、レポート作成にあたってのポイント、留意点を解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	課題レポート提出